

3. 鳥類調査

鳥類調査は、春季を平成18年5月26日、夏季を平成18年8月25日、秋季を平成18年9月6日、冬季を平成19年1月18日に実施した。

鳥類の確認種一覧は表2-3-1に示すとおりであり、9目20科46種の鳥類が確認された。また、各季の調査結果の詳細は、巻末の資料4-1～5に示した。

表2-3-1 鳥類の確認種一覧表

No.	目名	科名	種名	渡り区分	平成18年			平成19年	貴重種選定基準		
					春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	環境省RL	三重県RDB	
1	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	留鳥				○			
2	ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	○	○	○	○			
3	コウノトリ	サギ	ササゴイ	夏鳥		○	○			○	
4			ダイサギ	留鳥	○	○	○	○			
5			ヨサギ	留鳥	○	○	○				
6			アオサギ	留鳥	○	○	○	○			
7	カモ	カモ	マガモ	冬鳥				○			
8			カルガモ	留鳥	○			○			
9			コガモ	冬鳥				○			
10			オカヨシガモ	冬鳥				○			
11			ヒドリガモ	冬鳥				○			
12			オナガガモ	冬鳥				○			
13			ホシハジロ	冬鳥				○			
14			スズガモ	冬鳥				○			
15	タカ	タカ	ミサゴ	留鳥				○	○	○	
16			トビ	留鳥				○			
17	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥	○					○	
18			シロチドリ	留鳥	○						○
19			ケリ	留鳥	○						
20		シギ	キアシシギ	旅鳥	○		○				
21			イソシギ	留鳥	○	○	○	○			
22			ソリハシシギ	旅鳥		○	○				
23		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○			○			
24			セグロカモメ	冬鳥	○	○		○			
25			オオセグロカモメ	冬鳥				○			
26			カモメ	冬鳥				○			
27			ウミネコ	留鳥	○	○	○	○			
28			コアジサシ	夏鳥	○				○	○	
29		ハト	ハト	キジバト	留鳥	○			○		
30		ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥				○		
31		スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥	○					
32				ツバメ	ツバメ	留鳥	○	○	○		
33	セキレイ		ハクセキレイ	留鳥	○	○	○	○			
34			セグロセキレイ	留鳥	○		○	○			
35			タヒバリ	冬鳥				○			
36	ヒヨドリ		ヒヨドリ	留鳥				○			
37	ヒタキ		インヒヨドリ	留鳥	○		○	○			
38			ツグミ	冬鳥				○			
39			セッカ	留鳥	○		○				
40	ホオジロ		ホオジロ	留鳥	○			○			
41	アトリ		カワラヒワ	留鳥	○	○		○			
42	ハタオリドリ		スズメ	留鳥	○	○		○			
43	ムクドリ		ムクドリ	留鳥	○	○	○	○			
44	カラス		ハシボソガラス	留鳥	○	○	○	○			
45			ハシブトガラス	留鳥				○			
46	(ハト)	(ハト)	ドバト	留鳥			○				
合計 9目20科46種					26	15	17	34	2	5	

注1) 種名及び配列は「日本産野生生物目録-脊椎動物編-」(1993年、環境庁)に準拠した。

注2) 渡り区分は、一般生態の他、現地調査時の状況により区分した。

注3) 「環境省RL」及び「三重県RDB」は、「環境省レッドリスト 鳥類」(環境省、2006年)<<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7849>>及び「三重県レッドデータブック 2005 動物」(三重県、2006年)を示す。

3-1 出現状況

目別の種数及び個体数の集計は表 2-3-2、目別の種数及び個体数の季節変化は図 2-3-1 に示すとおりである。

種数及び個体数は、春季が 26 種 182 個体、夏季が 15 種 544 個体、秋季が 17 種 597 個体及び冬季が 34 種 1,795 個体となっており、冬季が種数、個体数ともに最も多くなっていた。

目別にみると、種数では、各季節ともスズメ目の種が 6~12 種と多く、春季にはチドリ目(9 種)、冬季にはカモ目(8 種)が特徴的に多くなっており、個体数を見ると、春季にはスズメ目、夏季及び秋季にはチドリ目カモメ科、冬季にはカモ目の種がそれぞれ最も多くなっていた。

なお、スズメ目の多くは、調査範囲の一部で見られる草地や樹林地のみで確認された。

表 2-3-2 鳥類の目別種数及び個体数

目名等	春季 (平成18年5月)		夏季 (平成18年8月)		秋季 (平成18年9月)		冬季 (平成19年1月)		合計	
	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数
カイツブリ目							1	34	1	34
ペリカン目	1	27	1	129	1	123	1	75	1	354
コウノトリ目	3	18	4	20	4	43	2	19	4	100
カモ目	1	6					8	777	8	783
タカ目							2	3	2	3
チドリ目チドリ科	3	28							3	28
チドリ目シギ科	2	7	2	3	3	10	1	5	3	25
チドリ目カモメ科	4	31	2	342	1	346	5	597	6	1,316
ハト目	1	2			1	3	1	2	2	7
ブッポウソウ目							1	1	1	1
スズメ目	11	63	6	50	7	72	12	282	15	467
合計	26	182	15	544	17	597	34	1,795	46	3,118

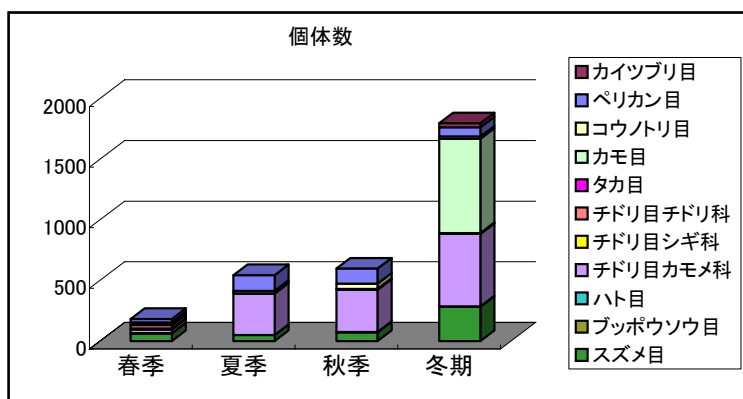
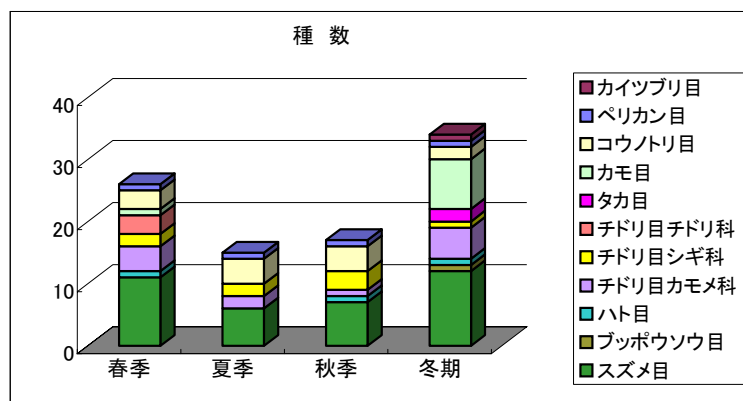


図 2-3-1 鳥類の目別種数及び個体数の季節変化

3-2 干潟部利用状況

干潟を利用する鳥類として、水辺に生息するカイツブリ目、ペリカン目、カモ目、チドリ目、スズメ目セキレイ科の種のほか、魚食性のミサゴ(タカ目タカ科)及びカワセミ(ブッポウソウ目カワセミ科)が確認された。これらの種の干潟利用域を明らかにするため、食性に着目したグルーピングを行った結果、表 2-3-3 に示す 7 つのグループに区分された。各グループの出現状況を次頁以降に整理した。

表 2-3-3 干潟を利用する鳥類のグループ区分

グループ No.	構成種等	主な食性	現地確認種
1	カイツブリ類、カワウ、ミサゴ、アジサシ類、カワセミ	海上及び河川で魚を食べる	・カンムリカイツブリ ・カワウ ・ミサゴ ・コアジサシ ・カワセミ
2	サギ類	浅瀬で主に魚を食べる。昆虫、エビ、カニ等広範。	・ササゴイ ・ダイサギ ・コサギ ・アオサギ
3	陸ガモ類	主に水草や藻、草の実や葉等。その他に水生昆虫、貝やエビ等。	・マガモ ・カルガモ ・コガモ ・オカヨシガモ ・ヒドリガモ ・オナガガモ
4	海ガモ類	潜水して貝類やカニ、水生昆虫、小魚、水草や藻など	・ホシハジロ ・スズガモ
5	シギ・チドリ類	ゴカイ、貝、カニ、水生昆虫等干潟の小動物を食べる	・コチドリ ・シロチドリ ・ケリ ・キアシシギ ・イソシギ ・ソリハシシギ
6	カモメ類	魚類、カニ、エビ、貝、ゴカイ、草の実や海藻、死体等さまざまなものを食べる	・ユリカモメ ・セグロカモメ ・オオセグロカモメ ・カモメ ・ウミネコ
7	セキレイ類	カゲロウ、ハエ、ガ等の昆虫類やクモ、イトミミズ等	・ハクセキレイ ・セグロセキレイ

(1) カイツブリ類、カワウ、ミサゴ、アジサシ類及びカワセミ

カワウが四季を通じて確認され、特に夏季と秋季に多数が確認された。また、コアジサシが春季のみ多数が確認された。

これらの種は、河口部に出現する浅瀬の中でも、沖側のやや水深のある場所を中心に利用しており、潜水や空中からのダイビングによる採餌のほか、沖に面した干潟部における休息が確認された。

表 2-3-4 カワウ、カイツブリ類等の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成18年			平成19年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
カンムリカイツブリ	留鳥				34	34
カワウ	留鳥	27	129	123	75	354
ミサゴ	留鳥				2	2
コアジサシ	夏鳥	25				25
カワセミ	留鳥				1	1
合計		52	129	123	112	416

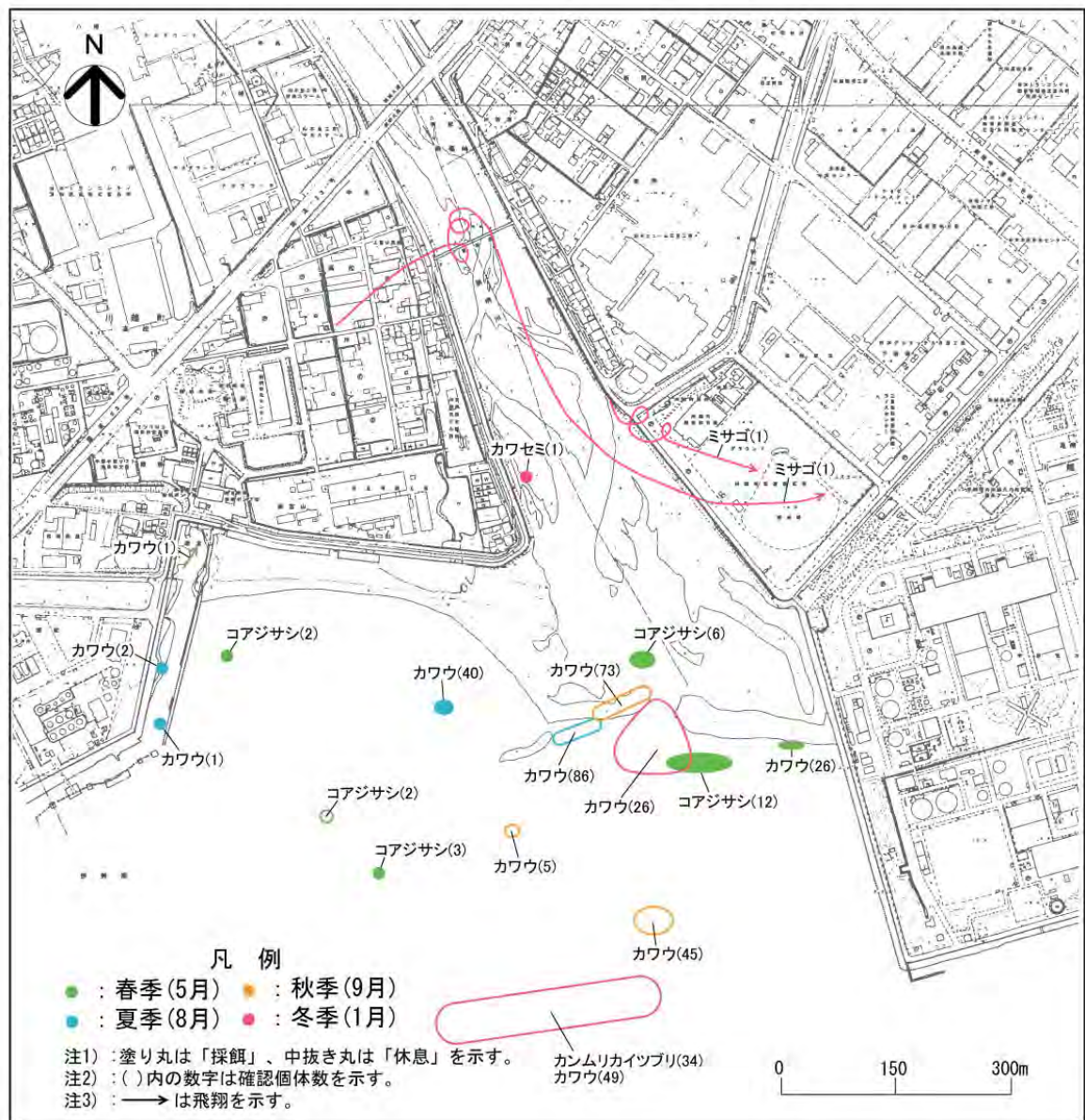


図 2-3-2 ミサゴ、カワウ、カワセミ、カイツブリ類及びアジサシ類の干潟利用状況

(2) サギ類

ダイサギ及びアオサギが四季を通じて確認され、特に秋季と冬季に比較的多数が確認された。

サギ類は、河口部に出現する浅瀬全域で採餌行動が確認されたほか、護岸等で休息する様子が確認された。

表 2-3-5 サギ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成18年			平成19年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
ササゴイ	夏鳥		1	2		3
ダイサギ	留鳥	8	8	18	6	40
コサギ	留鳥	4	5	15		24
アオサギ	留鳥	6	6	8	13	33
合計		18	20	43	19	100

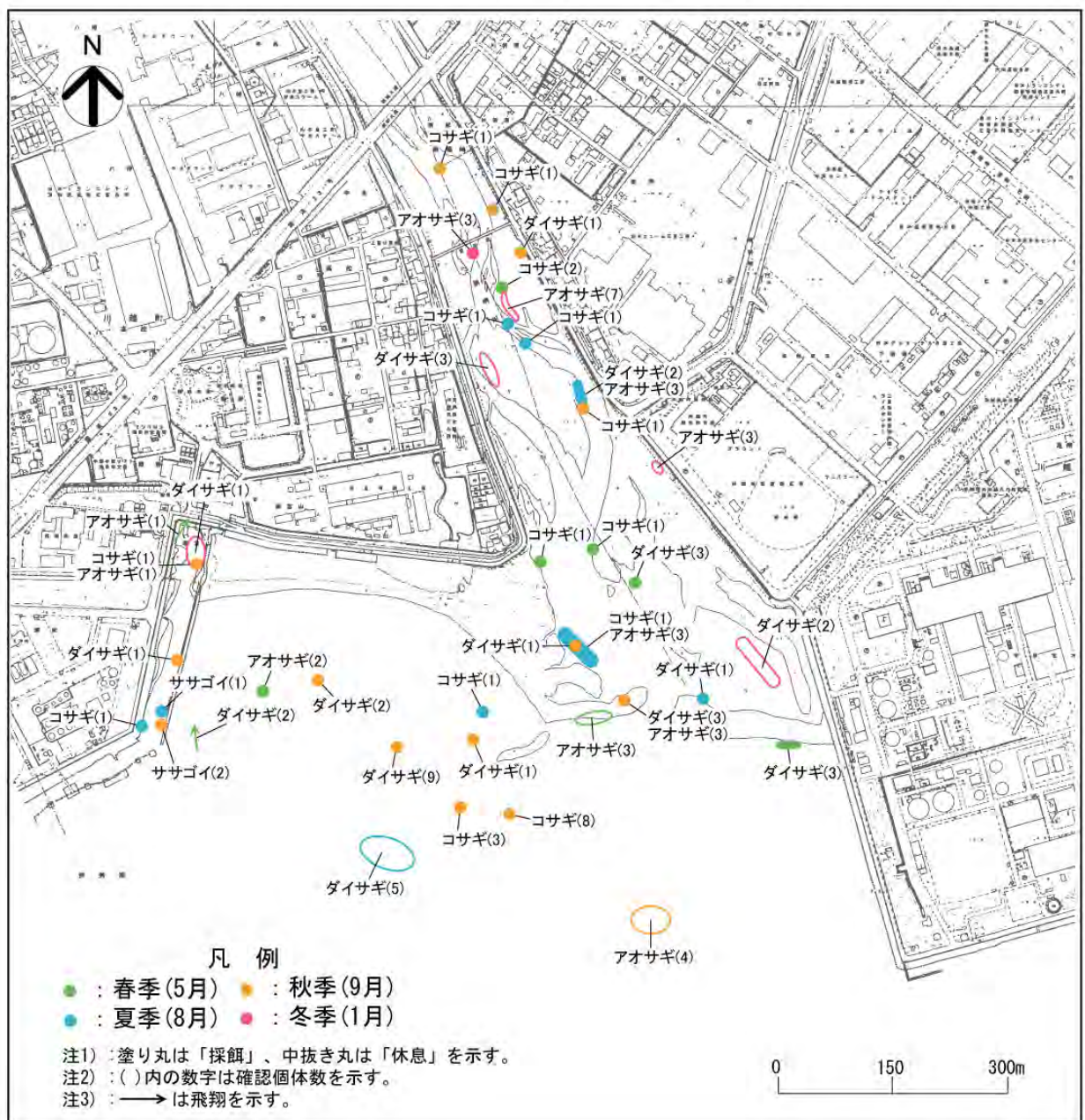


図 2-3-3 サギ類の干潟利用状況

(3) 陸ガモ類

カモ類は陸ガモ類、海ガモ類ともに、冬季に多数が確認された。カルガモは春季にも確認された。

これらの種は、河口部に出現する浅瀬のうち、岸沿いの草地等植生近傍の水面や陸上のほか、西側水路部水面で休息する様子が確認された。

表 2-3-6 陸ガモ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成18年			平成19年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
マガモ	冬鳥				3	3
カルガモ	留鳥	6			127	133
コガモ	冬鳥				42	42
オカヨシガモ	冬鳥				7	7
ヒドリガモ	冬鳥				69	69
オナガガモ	冬鳥				118	118
合計		6	0	0	366	372



図 2-3-4 陸ガモ類の干潟利用状況

(4)海ガモ類

海ガモ類は、ホシハジロとスズガモの2種が冬季のみ多数確認された。

これらの種は、河口部に出現する浅瀬のうち、沖側のやや水深のある場所や西側水路部の水面上を中心に、休息する様子が確認された。

表 2-3-7 海ガモ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成18年			平成19年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
ホシハジロ	冬鳥				199	199
スズガモ	冬鳥				212	212
合計		0	0	0	411	411

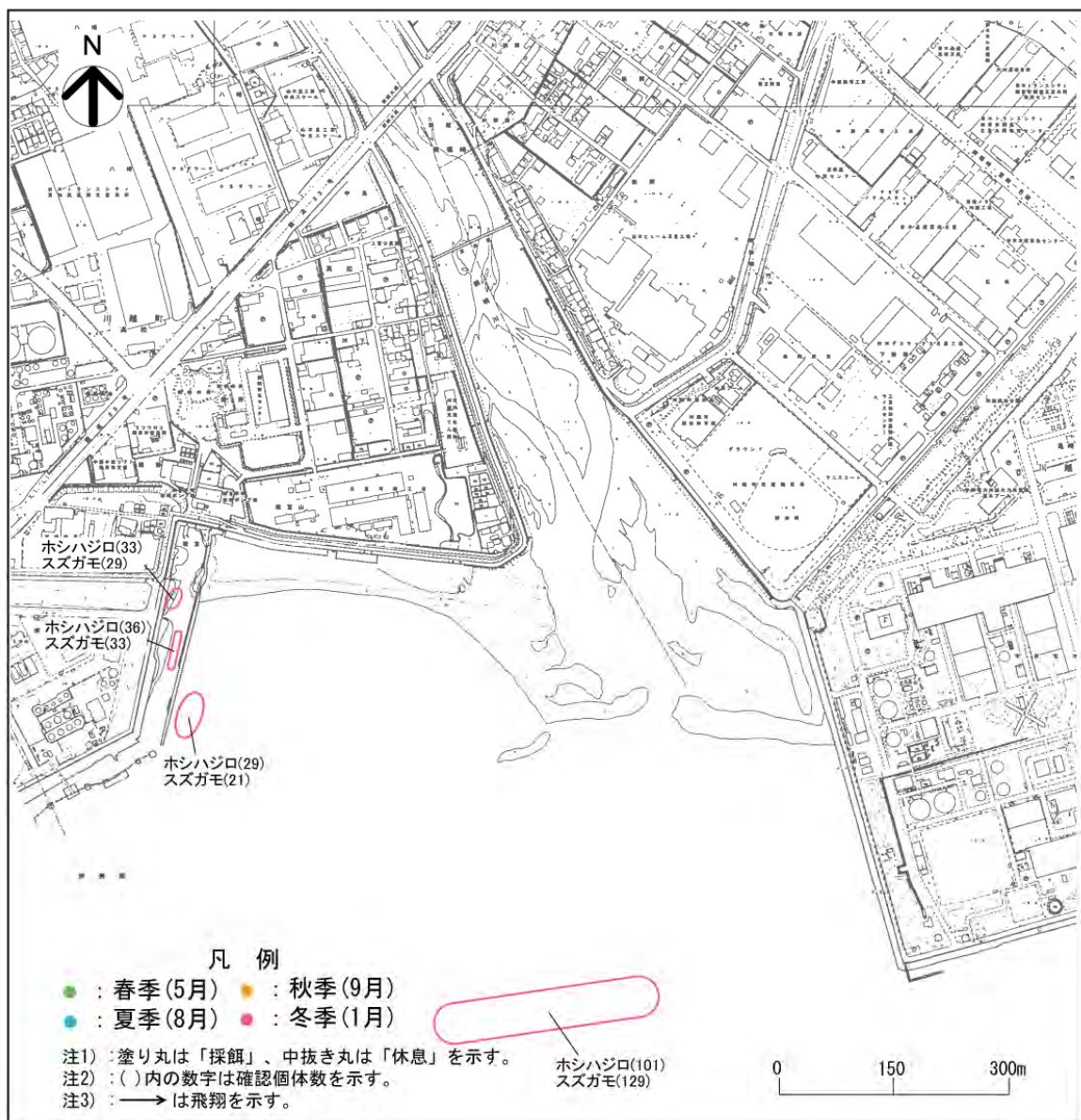


図 2-3-5 海ガモ類の干潟利用状況

(5) シギ・チドリ類

留鳥では、四季を通じてイソシギが確認され、春季にのみシロチドリが比較的多数が確認された。また、旅鳥であるキアシシギが春季と秋季に、ソリハシギが夏季と秋季に確認された。

本グループの種は、河口部に出現する干潟全域で移動しながら採餌する様子が確認された。中でも、干潟西側の水路部で採餌する個体が比較的多数確認され、この付近を重要な餌場としている様子がうかがえた。

表 2-3-8 シギ・チドリ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成18年			平成19年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
コチドリ	夏鳥	1				1
シロチドリ	留鳥	26				26
ケリ	留鳥	1				1
キアシシギ	旅鳥	6		5		11
イソシギ	留鳥	1	2	4	5	12
ソリハシギ	旅鳥		1	1		2
合計		35	3	10	5	53

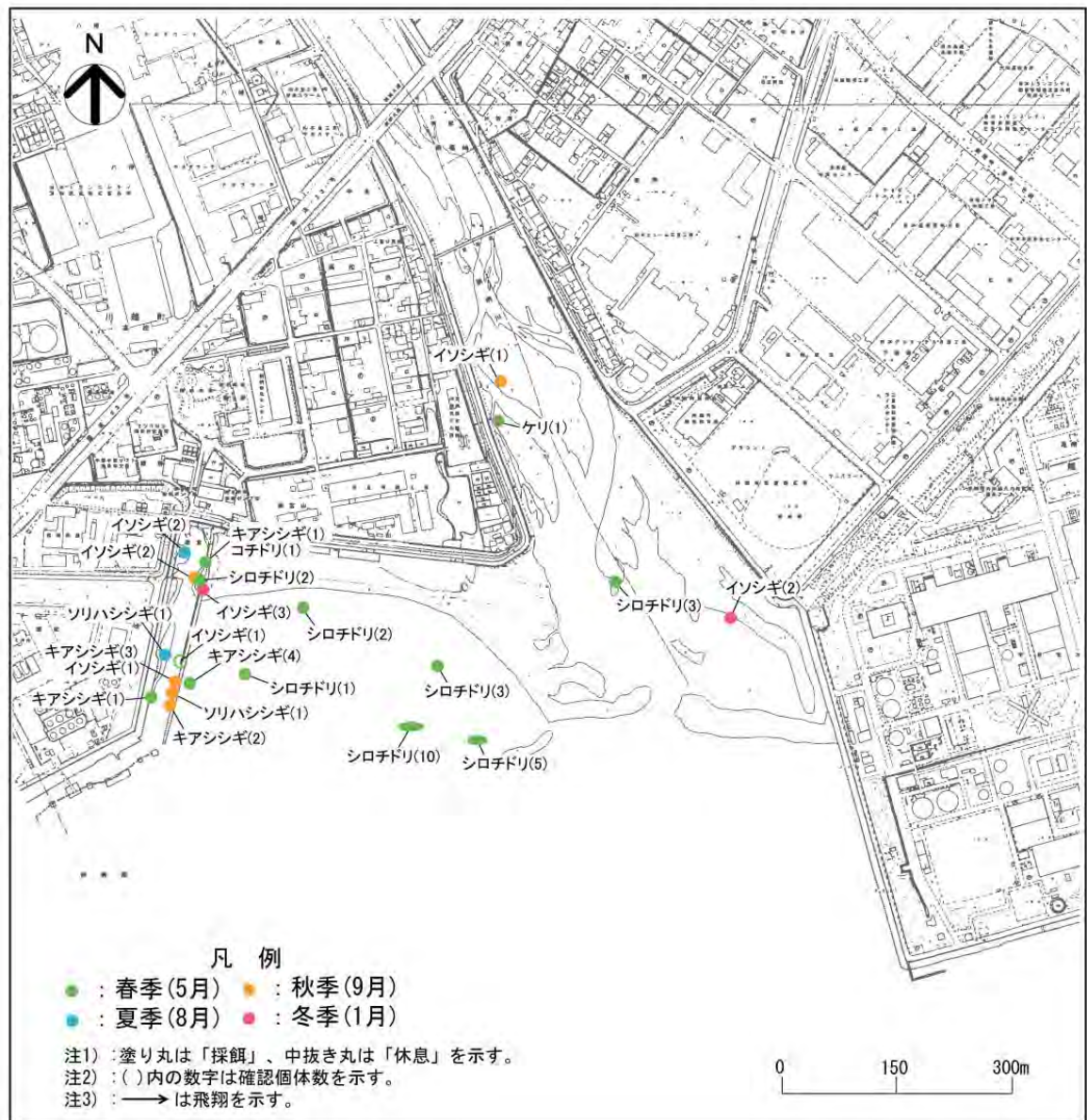


図 2-3-6 シギ・チドリ類の干潟利用状況

(6) カモメ類

留鳥であるウミネコが四季を通じて確認され、特に夏季と秋季に多数が確認された。ウミネコ以外では4種の冬鳥が確認されたが、冬季にユリカモメが特に多く確認された。

これらの種は、沖に面した干潟部や河口部の浅いプール状水域等で休息する様子が確認された。

表 2-3-9 カモメ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成18年			平成19年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
ユリカモメ	冬鳥	1			429	430
セグロカモメ	冬鳥	4	6		49	59
オオセグロカモメ	冬鳥				2	2
カモメ	冬鳥				64	64
ウミネコ	留鳥	1	336	346	53	736
合計		6	342	346	597	1291

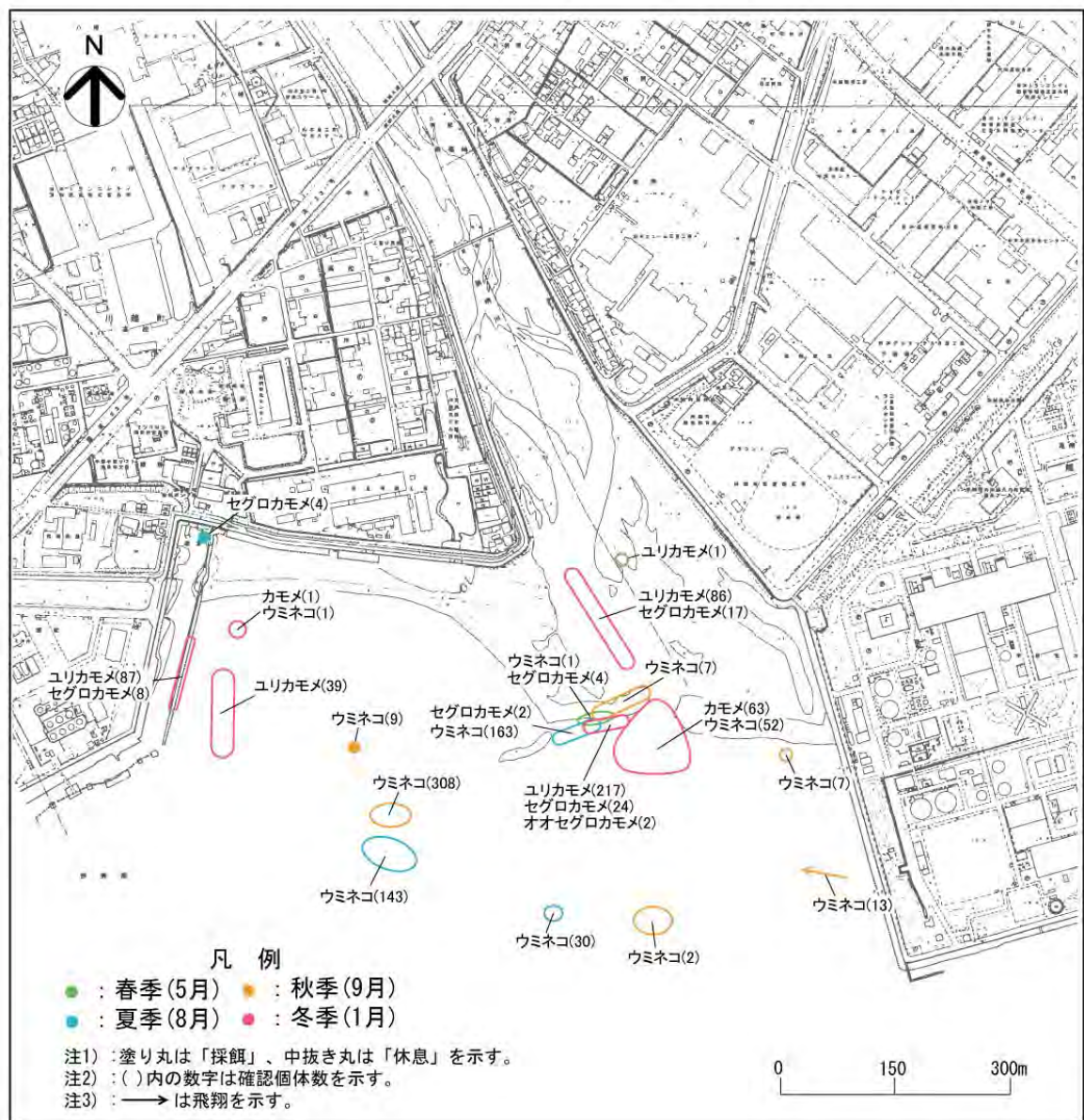


図 2-3-7 カモメ類の干潟利用状況

(7)セキレイ類

セキレイ類は、ハクセキレイが四季を通じて確認され、セグロセキレイが春季、秋季及び冬季に少数確認された。

両種とも、河口部の砂浜や砂礫地、西側水路部において、水際を移動しつつ、採餌する様子が確認された。

表 2-3-10 セキレイ類の季節別出現状況

種名	渡り区分	平成18年			平成19年	合計
		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
ハクセキレイ	留鳥	2	5	4	7	18
セグロセキレイ	留鳥	2		3	2	7
合計		4	5	7	9	25

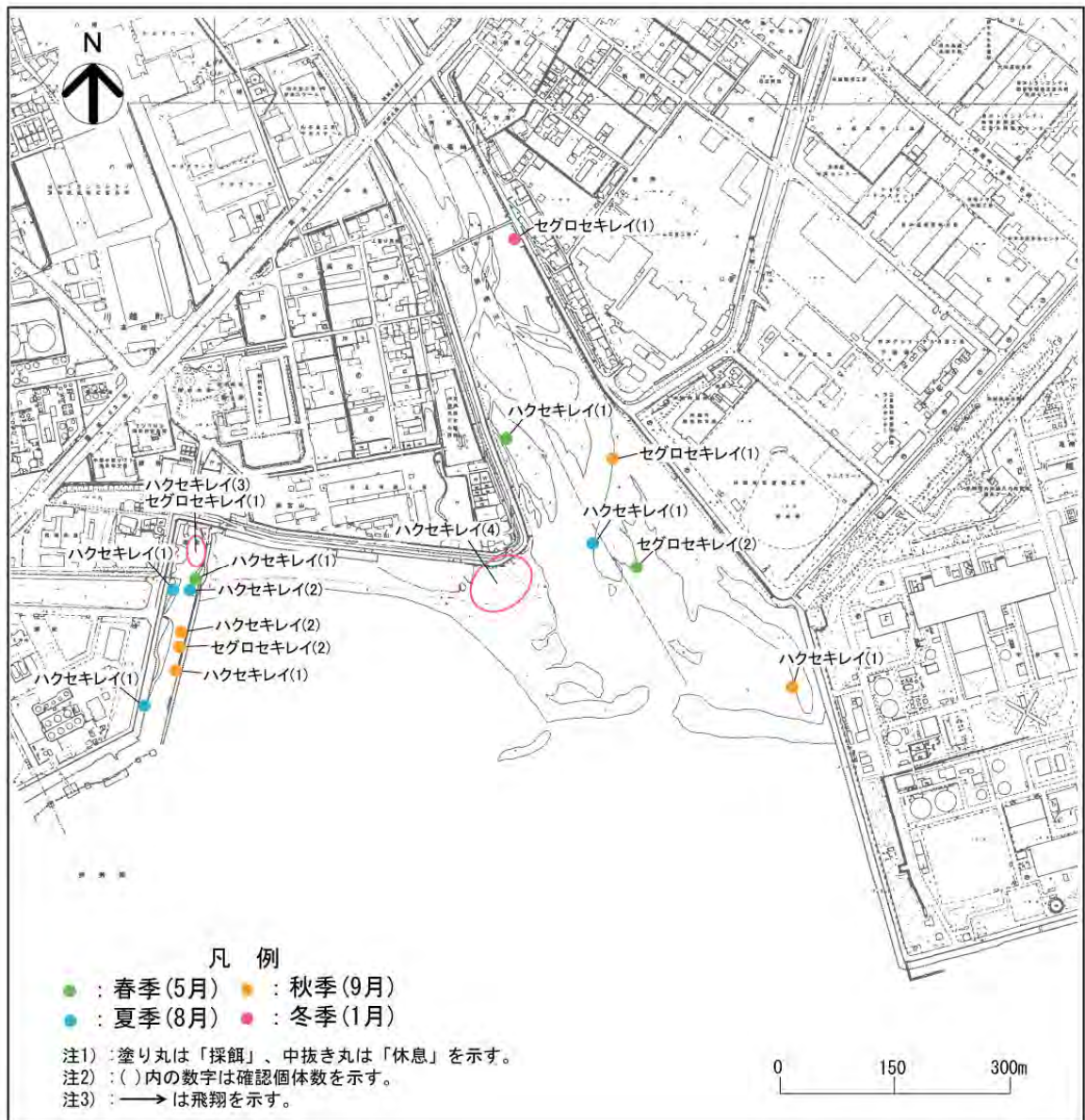


図 2-3-8 セキレイ類の干潟利用状況

3-3 繁殖状況

調査範囲における繁殖に係る行動として、春季にヒバリのさえずりを確認した。本種は干潟を利用する鳥類ではないが、一部に草地環境が存在しており、繁殖している可能性が考えられるが、巣や雛等繁殖の兆候は確認されなかった。

3-4 貴重種生息状況

貴重種として、ササゴイ、ミサゴ、コチドリ、シロチドリ及びコアジサシの5種が確認された。

貴重種の確認状況及び選定基準等を表 2-3-11、干潟利用状況を図 2-3-9、貴重種の生態等を資料 4-3 に示す。

＜干出した干潟部＞

広い範囲で、春季にシロチドリとコアジサシの採餌行動が確認された。また、冬季には、その上空を広域的に採餌飛行するミサゴのペアが確認された。

＜西側の水路付近＞

水際において、秋季と冬季にササゴイ、春季にコチドリが少数確認された。

表 2-3-11 鳥類の貴重種確認状況

No.	種名	貴重種選定基準		渡り区分	平成18年			平成19年	確認状況
		環境省RL	三重県RDB		春季(5月)	夏季(8月)	秋季(9月)	冬季(1月)	
1	ササゴイ(サギ科)		絶滅危惧II類(VU) [繁殖]	夏鳥		●	●		夏季及び秋季に西側の水路護岸水際において、採餌中の個体が夏季に1個体、秋季に2個体が確認された。
2	ミサゴ(タカ科)	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧IB類(EN) [繁殖] 絶滅危惧II類(VU) [越冬]	留鳥				●	冬季に海上及び朝明川周辺の上空において、採餌のため飛行するペア(2個体)が確認された。
3	コチドリ(チドリ科)		絶滅危惧IB類(EN) [繁殖]	夏鳥	●				春季に西側の水路水際において、採餌中の個体1個体が確認された。
4	シロチドリ(チドリ科)		絶滅危惧IB類(EN) [繁殖] 準絶滅危惧(NT) [越冬]	留鳥	●				春季に干出した干潟において、採餌中の個体26個体が確認された。
5	コアジサシ(カモメ科)	絶滅危惧II類(VU)	絶滅危惧IB類(EN) [繁殖]	夏鳥	●				春季に干出した干潟直近の水域を中心に主にハンティングする個体25個体が確認された。

注1) 種名及び配列は「日本産野生生物目録－脊椎動物編－」(1993年、環境庁)に準拠した。

注2) 渡り区分は、一般生態の他、現地調査時の状況により区分した。

注3) 「環境省RL」及び「三重県RDB」は、「環境省レッドリスト 鳥類」(環境省、2006年) <<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7849>>及び「三重県レッドデータブック 2005 動物」(三重県、2006年)を示す。

絶滅：我が国(三重県)ではすでに絶滅したと考えられる種。

野生絶滅：飼育・栽培下でのみ存続している種。

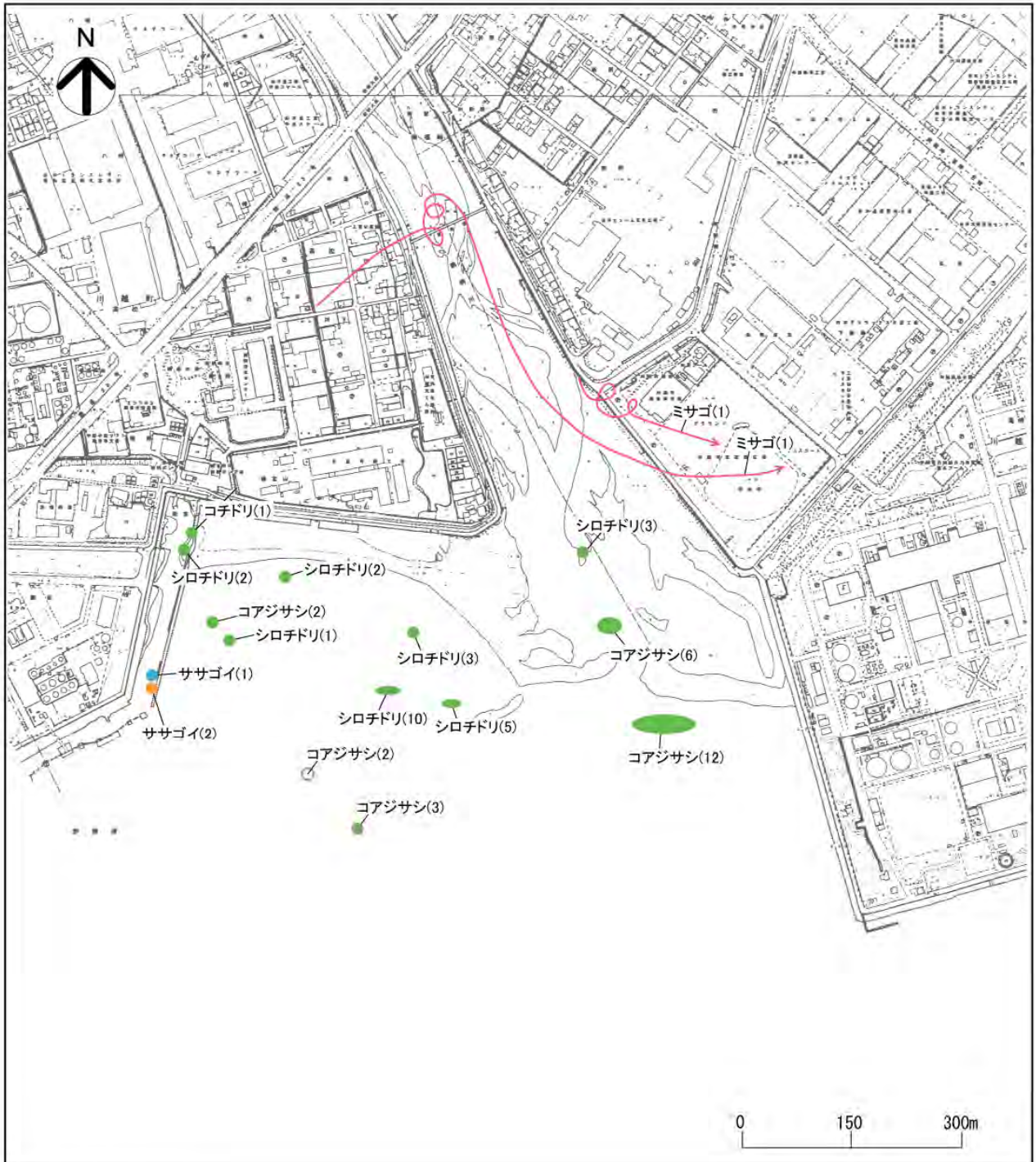
絶滅危惧 I A類：絶滅の危機に瀕している種で、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

絶滅危惧 I B類：絶滅の危機に瀕している種で、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

絶滅危惧 II類：絶滅の危険が増大している種。

準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種。

情報不足：評価するだけの情報が不足している種。



凡 例

- : 春季(5月) ● : 秋季(9月)
- : 夏季(8月) ● : 冬季(1月)

注1) : 塗り丸は「採餌」、中抜き丸は「休息」を示す。

注2) : ()内の数字は確認個体数を示す。

注3) : → は飛翔を示す。

図 2-3-9 鳥類貴重種の確認位置図